

## 学費の考え方と後期授業について

2020/09/08

学生並びに保護者の皆様

理事長 菅谷 定彦  
学 長 山本 和人

初秋の候とはいえ、まだまだ暑い日が続き、新型コロナウイルス感染者数も東京を中心にまだまだ多く確認されている状況です。また、地域によっては自然災害に見舞われるなど、厳しい状況も見られ、早い回復を心よりお祈りいたします。

東京所在のほとんどの大学は、緊急事態宣言解除の5月25日以降も学生の安全を第一に、クラスター発生を防ぎ、感染拡大防止のために、オンライン授業を中心に進めてきています。本学においても前期はオンライン授業とし、学科・学部で検討した対面授業が必要な実験実習等は、感染防止対策に細心の注意を払い夏季休暇中に集中講義を行ってきました。また、オンライン授業を円滑に進めてもらえるよう、すべての学生に一律5万円の奨学金給付をはじめ、教科書・参考資料等の送付、パソコンを所有していない学生に対するノートパソコンの貸し出し、コロナ禍による経済的困窮学生には一人7万円の給付を行うなど、学修支援を行ってきました。これらの対策経費は、およそ7億円に達します。今後もさらにコロナ対策費を要することが予測されます。

後期授業についても、東京の感染者数拡大が落ち着きを見せていないことから、原則オンライン授業としながら、対面授業が必要な実験実習等の授業は、教室の人数を制限し間隔をあげ、消毒等の対策の上に細心の注意を払い、授業を実施します。学生間の間隔を保つために、入室者数を教室定員の1/2以下に制限して行います。事前申し込みになりますが、図書館の利用も可能になりました。卒業論文等を仕上げる学生は優先して利用することができます。

入構の際には、正門と十条門に体温確認のサーマルカメラを設けた建物（プレハブ）を仮設し、そこを通過しなければ学内に入れません。授業等に参加する学生の安全を確保するために万全の注意を払っています。

またオンライン授業の質を高めるために、前期授業等に対する学生のアンケートを実施し、意見等を集約、参考にして、よりよいオンライン授業、指導体制、教育環境をつくり上げるために、効果的な授業方法について情報共有化等を進め、オンデマンド教材等を遅滞なく発信できるためのICTハード環境充実にもなお一層取り組んでいます。

本学は、ご息女の学修が卒業に向けさらに深まるよう、コロナ禍の現在も、最善を目指し改善・改革に努めております。コロナ後、さらにこれからの社会では、DX（デジタル・トランスフォーメーション）が進む中、本学の卒業生が社会の変化に即応し、活躍できるよう教育改善、教育環境改善に取り組んでいます。

ご質問が多い、授業料、施設設備維持充実費等の学費については、学生が必要な学修を進め学位を得る卒業までの期間全体で考え、納入頂いているものです。施設維持充実費は、ご息女の4年間（短大は2年間）の学修を保証する目的で、永続的な大学運営に必要な施設設備等の取得、更新、改修、保守等機能維持のために使用されるものです。現時点でも、オンライン教育のため ICT 環境の整備、拡張のためにも使用していますし、キャンパス正常化に向け、ICT 環境充実を図り、計画的に、施設設備の維持管理、更新、新規導入等を行っています。授業料等も同様に、学生の皆さんの学修の質を保証するための大学運営に欠かせない原資であります。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

本学は、これからも学生の皆さんの学修、学位達成のために最善の教育体制を整備し、学修を支援してまいります。コロナ禍の終息はいまだ見えておりません。皆様のご健勝とご息女の益々の学修の深化を祈念いたします。